

浜頓別町子どもの読書活動推進計画

(平成27年度から平成30年度まで)



浜頓別町教育委員会

1. 本を読むことの意義

現代の子ども達を取り巻く生活環境は大きく様変わりし、テレビに代表される娯楽映像メディア、家庭用ゲーム機、インターネット等、それらに割かれる時間が増加する一方で、マンガや雑誌を除くいわゆる児童文学書や小説（以下、「本」という。）に触れる時間が減少していると言われております。

子ども達がこういった本を読む（以下、「読書」という。）ことで、より多くの“言葉”や豊かな“表現力”、または“感性”や“考える力”等を育まれていくとも言われており、それぞれの年齢期において優れた本と出会うことは、その後の人格形成に重要な役割を担っております。

その時々で社会状況が大きく変化しても本そのものの性質は不変であり、社会全体で本に触れ親しみ、また、読まれるように家庭や学校等と図書館が連携した取り組みを進めていく必要があります。

2. 基本的な考え方

（1）計画策定の目的

子ども達が夢と希望をもち健やかに成長していくためには、学校での教育活動はもとより、学校・家庭・地域社会が一体となり自ら学び自ら考える力や豊かな人間性等の「生きる力」を育むための環境づくりが求められています。

その中で国は、平成13年12月に「すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境整備を推進すること」を基本理念とした「子どもの読書活動の推進に関する法律」を制定し、北海道においても平成15年に「北海道子どもの読書推進計画」を策定しました。

本町においても、子ども達が読書をすることで豊かな人格を育むことができるようお願い「浜頓別町子どもの読書活動推進計画」を策定するとともに、読書環境がより充実するよう各種事業を進めてまいります。

（2）計画の目標

- ① 本に触れ親しむ機会の提供
- ② 読書をする習慣を身につけることができるような環境づくり
- ③ 家庭や学校等、関係機関と連携した読書活動の推進

（3）計画策定の期間

平成27年度から平成30年度までの4年間の計画とします。

3. 読書活動推進のための取組み

(1) 家庭における読書の推進

家庭は、子どもが最初に本と出会いその楽しさを知る場であるだけでなく、読書に対する興味や関心を培う場でもあります。

このため、関係部署・機関とも連携し乳幼児への家庭での読み聞かせの大切さを伝えてまいります。

- ◇ 乳幼児期の家庭での読み聞かせの推進
- ◇ ブックスタート事業・ブックスタートプラス事業との連携・協力

(2) 学校等図書整備充実

読書活動を推進する上で学校内での取り組みは重要であり、子ども達がより多くの本に触れ親しむことができる環境を整えてまいります。

また、学校図書室にあっては子ども達がより多くの本に触れる機会となることから、図書館とも連携し読書の習慣づけを図ってまいります。

- ◇ 朝読書等学校の読書活動に対する支援
- ◇ 図書館便りの発行
- ◇ 巡回文庫の実施
- ◇ 学校図書の充実

(3) 読書環境の整備と読書の推進

図書館の蔵書充実、読書への動機づけと関心の高まりにつながる一つの要因と考えられます。

魅力ある図書館づくりのため、限られたスペースを有効的に活用し、広報活動を充実し、特別展示や各種事業を展開してまいります。

- ◇ 利用者からのリクエストの受付
- ◇ 特別展示の実施
- ◇ 絵本作家による読み聞かせ・講演会の実施
- ◇ 図書館の環境整備
- ◇ 他自治体等との相互貸借